

な

ご

み

つ

う

し

ん

発行日：平成 27 年 11 月 24 日(第 11 号)

発行：島田療育センターはちおうじ

家族からのインタビュー④です。産まれてきてくれてありがとう、思っているお母さんのメッセージが届いた子どもたちの喜びが伝わってきます。

所長 小沢 浩

母が夜 12 時ごろに陣痛がはじまって、父が三島の産院に行く途中に頭が出てしまったそうです。ついてから 5 分ほどでわたしは生まれました。しかし後産と言って胎盤がなかなか出ないで、とても大変だったそうです。

退院して母の実家に戻った時に、大量にミルクをはきだし、それからはミルクを少しのんではもどし、最後にはミルクも受けつけなくなりました。

そして、病院に紹介され診察したらそのまま入院になりました。腸が全く働いていませんでした。新生児集中治療室に入りました。ミルクも冷凍保存してもらって、少しずつ増やしていったそうです。それから 2 週間後に退院して、それからは、大きな病気もなく育ちました。

(1 年男子)



僕は、全く生まれる気配がなかったそうです。両親も周りの人もとても心配しました。病院へ行った父母は、先生に「今日生まれなかったら、帝王切開で出します。」

と言われて、とてもびっくりしました。無事に普通に産まれてきてよかった、と母が言っていました。僕の生まれた日は雲一つない快晴で、とても気分が良かったそうです。

僕を産んでくれた母に、とても感謝したいです。

(1 年男子)

母子同室になり静かな一瞬を過ごしていましたが、おとなしくて寝てばかりで産まれてすぐ親孝行な子だな～と思っていました。逆に反応が少ない…何か病気でもと自分を責めたり悩みつつ、何があっても強い気持ちで育てていこうと決心しました。退院して家に戻った途端にぎやかな家族に囲まれたせいかようやく泣き出した様子を見てほっとしたのを覚えています。出産で感動、喜び、不安や心配、親としての責任などいろんな思いを感じ、命の大切さを教えてもらいました。

(3 年女子)

私は、逆子だったため、帝王切開での出産でした。お母さんはとても痛くて苦しく、大変だったと言っていました。手術後は傷が痛むため、一人では何も出来なかったそうです。

お母さんの思いは、話を聞いていて、伝わってきました。もちろん私にその時の痛みはわかりません。しかし、お母さんは普通に産むよりも、さらに上の痛みを味わっています。

私は、お母さんがつらい思いをして産まれてきた子です。その命、無駄にするようなことは決してしてはいけないと改めて思いました。

(3年女子)



- ほんとうによく泣いた。
- ベビーベットではねれず、母の胸元でねていた。
- 母のすいみん時間は少なく、大変でいやになったこともあったけど、そこにやさしい姉が来て「大丈夫、大丈夫」といって姉にも育ててもらった。
- よく泣くとドライブに行ったらしい。
- 母は産まれてきてくれて「ありがとう」と毎日のように思っていると言っているし、ぼくも母や姉の子でよかったと思っている。
- 両親がりこんしてしまったのでぼくが大人になったら子どもが大きくなるまで死ぬまで面どうをぜったいに見る。

(2年男子)

父は教師で、6年の担任で、その日は卒業式の日だったので、生まれた時は母より早く僕を抱いて、その後急いで卒業式に向かったそうです。その後、母は僕を抱っこして、僕が無事生まれてよかったと思ったそうです。(2年男子)

母は産むときに出血が多く倒れてしまったそうです。そして、僕は産まれてからも黄疸が出たり生後25日で水疱瘡になったりとても大変だったと言っていました。

ぼくはこの話を聞いた時にとても迷惑をかけて産まれてきたんだ、と思いました。なので、僕はこれからも命を大切に生きていきたいと思います。

(3年男子)

ぼくがゆっくりゆっくりやっと産まれたときは、うれしくて泣いてしまったそうです。

ぼくはそれをきいたとき、お母さんが生んで育ててくれてとてもありがたかったと思いました。

生まれたときは、もう死んでしまったけれどひいおばあちゃんによくしてもらったそうです。(3年男子)

(奇跡がくれた宝物 小沢浩著  
クリエイツかもがわ より)

